№20　令和6年12月24日（火）

CS通信

訓子府町 CS・学校運営協議会

地域みんなで学校応援団
これまでのCS通信や学校運営協議会に
関する情報はこちらへ 《訓子府町HP》⇒

CS(コミュニティ・スクール) 第2回学校運営協議会の開催

今年度２回目の学校運営協議会を１０月２９日に公民館多目的ホールで開催しました。まず、こども園、各学校から現在の状況や前期学校評価結果について報告がありました。各学校とも通常に近い取り組みが行われていることが報告されました。前期学校評価結果については、各学校とも、ほとんどの項目で高評価を得ていましたが、評価の低かった項目を課題として立てた対策や後期の取組について話されていました。

<認定こども園>保護者アンケートより、「外遊びや散歩の充実」「室内での遊びや活動」「献立表や毎日の給食」が高評価であった。他には「職員による指導のばらつき」が指摘された。給食時における指導が原因と考えられる。また、「保護者が参加しやすい行事の日程」では、全員の意見を取り入れるのは難しくやむを得ない、という評議員の意見があった。 さらに、津野町との働き方の比較では、「訓子府の先生方は忙しくされているが、とても丁寧に対応している」と驚かれていた。

<訓子府小学校> 学校評価より、「楽しく学校に通っている」や「仲間と協力して取り組んでいる」などは高評価であった。他には、「家庭学習の時間」と「自分の考えを伝える力」が足りないという評価が出た。この2点については学校課題として大きく取り上げていく。家庭学習では、ICTを活用した取組を後期から進め、来年度へとつないでいくことが報告された。

<居武士小学校>＜学習のきまりを守りながら勉強に取り組む＞＜基礎的基本的な学力や表現力を身につけている＞など高評価を得ている。＜目指す子どもの姿＞や‹教育活動等›の評価は、保護者・子どもたちはともに高いが、先生方の評価はそれほどでもない。先生方の意識の中に、居小の子どもたちはまだまだ力を発揮する、伸びしろがある、と考える先生方が多い。

<訓子府中学校>学校全体として＜チームで取り組む＞ことが全体に浸透してきている。「生徒が安心して学校生活を送る」点では、保護者の目はまだまだ厳しい。家庭学習への取組や家庭でのTV・ゲームの時間では、まだまだ課題があるとの指摘を受けた。他には、トイレの異臭問題解決やクーラー設置による学習環境の改善が評価されている。

<訓子府高校>職員間の連携と社会に開かれた教育課程の実現では共にA評価であった。半面、学習指導におけるルーブリック評価と学校ホームページの更新等がやや不十分との評価であった。くんねっぷ学をはじめ、地域の教育資源を活用する授業が高評価となった。ICT活用や授業改善に課題が見られた。

このあと、グループ協議にうつり、それぞれの議題について話し合いが行われました。写真にありますように、あらかじめ３つのグループを作り、「園・各学校の問題・課題」についてグループごとに協議を行っていただきました。続いて、「今後の訓子府町の小中学校の在り方」について同一課題をそれぞれのグループで協議を行っていただきました。

2回目の学校運営協議会の目玉には、「熟議」があります。この熟議は、多くの当事者による「熟慮」と「討議」を重ねながら政策を形成していくこと。政策を形成する際、①多くの当事者（保護者、教員、地域住民等）が集まって、②課題について学習・熟慮し、討議を重ねることにより、③互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、④解決策が洗練され、⑤個々人が納得して自分の役割を果たすようになる、というプロセスのことを言います＜文部科学省より＞。

<グループ協議>一つ目は「園・各学校の問題・課題」についてグループ協議を行いました。

Aグループ**＜部活動の地域移行の方策と考え方＞**

「子どもたちが不安に思っている。町が方向性を考えるべき」「指導者の職場の理解が必要」「保護者を交えた会議等を持つべき」等の意見が出されました。

Bグループ**＜児童生徒・学校のウェルビーイングを実現する家庭・地域の関わり＞**

※部活動の地域移行の議題へシフト「先生方の負担軽減を。地域移行へ大人（親）たちが積極的になっても場所が問題。先生方の協力がなければできない」「保護者だけでは限界」などの意見が出されました。

Cグループ**＜不登校生徒の解消策（地域との連携策など効果的な方策があれば）＞**

「中学校、高校の不登校状況を聞いた。昔はいなかった。原因は？特にない。いじめのようなものがあれば対処しやすいと思われる。他の事情なら難しい」等の意見が出されました。

二つ目の議題に入る前に教育長より、「訓子府町内小学校在籍者数推移」「義務教育学校と小中一貫型小学校・中学校の違い」などいくつか資料を提示いただき、説明していただきました。

<グループ協議>二つ目は「**今後の訓子府町の小中学校の在り方**」についてグループ協議を行いました。

Aグループ「訓小・居小それぞれの改修は不要（どちらか1校のみ）」「（小学校の）統合を考えていかなければ」「住民の意見を聞くこと」「町としての考えにいくつか選択項目を入れるとすれば、校区を撤廃する、外国の例を参考に考える、カリキュラムの特化を行う、など新しい発想を」等の意見が出されました。

Bグループ「3校維持するのは難しいので、まとめるのが妥当ではないか」「義務教育学校か小中一貫校にするかは、メリット・デメリットを説明し、先生方のメリットも考えて選択する事も必要ではないか」「訓子府の子どもたちにどういう学びをさせるか。メリットを地域の方と一緒に考え、子どもを育てていく」などの意見が出されました。

Cグループ「義務学校と小中一貫校のメリット・デメリットは？の質問に、温根湯の義務学校の例に説明した」「学校の在り方としてどうしたらいいか」等の意見が出されました。

グループ協議終了後に、教育長が感想を求められ、「いろんな意見をいただきました。感謝いたします。これらの意見を参考に今後考えて参ります」とお話になりました。

今年度の園・各学校の取組から

たくさんの取組の中から、訓中訓高協働農作業の一部をご覧ください。

5月のタマネギ苗植えです

7月の草取りの様子です

高3による発表です

ＣＳ通信・スクールサポーター・学校応援団についてのお問い合わせ：教育委員会管理課（TEL 47-2122）まで